

安全データシート (SDS)

作成 2016年12月22日
最終改訂 2024年4月18日

1.【化学物質等及び会社情報】

製品
製品の名称 アルセンパウダー スケールと～る

供給者情報
会社名 アルタン株式会社
住所 東京都大田区東糞谷3-11-10
マーケティング室 開発企画課

電話番号 03-3743-5705
FAX番号 03-3743-5706
緊急連絡先 同上

2.【危険有害性の要約】

GHS分類
健康に対する有害性
皮膚腐食性・刺激性 区分2
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2A

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) 区分3
水生環境有害性 長期(慢性) 区分3

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、
上記以外の項目は、現時点で「分類できない」又は「区分に該当しない」である。

絵表示又はシンボル



注意喚起語 警告

危険有害性情報 皮膚刺激
強い眼刺激
長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】 取扱い後は手をよく洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護メガネ/保護面を着用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
換気の良い場所で使用すること。
環境への放出は避けること。

【救急処置】

飲み込んだ場合
口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚に付着した場合
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐか取り除くこと。
皮膚をシャワーで洗うこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

吸入した場合
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合
水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて
容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

【保管】

施錠して保管すること。
換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

内容物や容器は、都道府県または市町村の明示する規則に従って廃棄すること。

3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物

成分及び含有量

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	労働安全衛生法	PRTR法
クエン酸(一水和物)	非公開	5949-29-1	2-1318	通知対象外物質	非該当
スルファミン酸	非公開	5329-14-6	1-402	通知対象外物質	非該当
非イオン界面活性剤	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当

4.【応急処置】

吸入した場合	粉塵やミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の場所へ移動し、鼻をかんだり、よくうがいをする。何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、直ちに脱ぎ皮膚を多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診断を受ける。
目に入った場合	直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。その後、直ちに医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合	直ちに水で口の中を洗浄し、直ぐに吐き出させる。直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への診察時には、製品または製品安全データシートを持参する。

5.【火災時の措置】

消火剤	粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火剤、二酸化炭素、砂、霧状水等
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業時には煙の吸入を避ける。加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物、イオウ酸化物を含む有毒で腐食性のヒュームを生じる。この物質の水溶液は強酸であり、塩基と激しく反応し、腐食性を示す。塩素、発煙硝酸と激しく反応して、爆発の危険性をもたらす。
消火方法	消火作業は、可能な限り風上から行う。周囲の設備等に散水して冷却する。関係者以外は、安全な場所に退避させる。
消火を行なう者の保護	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項	保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴、保護衣、保護マスクなどの保護具を着用する。
保護具及び緊急時措置	漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。屋内の場合、処理が終了するまで十分に換気する。
環境に対する注意事項	漏出物を河川や公共用水域へ流出させ、環境を汚染しないように注意する。
除去方法	少量の場合には、容器に掃きいれ回収する。残留分は、石灰、ソーダ灰の水溶液をまいて中和し、大量の水を用いて洗い流す。ゆで麺器は、アルカリで中和してから排水する。

7.【取り扱い及び保管上の注意】

取扱い	技術的対策	適切な換気を行い、作業時は、適切な保護衣、保護手袋、保護眼鏡、保護面等を着用する。
	注意事項	眼及び皮膚への接触を避ける。適切な排気換気装置を使用する。取扱い後は手や顔等を良く洗い、うがいをする。適切な保護具を着用すること。
保管	適切な保管条件	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。直射日光や雨水が当たる、或いは湿気のある場所での保管は避ける。子供の手の届かないところに保管する。

8.【暴露防止及び保護措置】

設備対策		取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。適切な排気換気装置を使用する。
管理濃度		設定されていない。
許容濃度	日本産衛学会	設定されていない。
	ACGIH	設定されていない。
保護具	呼吸器の保護具	有害粒子用フィルターマスクの着用が望ましい。
	手の保護具	ゴム保護手袋
	眼の保護具	保護メガネ
	皮膚及び身体の保護具	保護衣、ゴム長靴

9.【物理的及び化学的性質】

物理状態	粉末
色	白色～淡黄色
臭い	データなし
融点	データなし
沸点	データなし
可燃性	データなし
爆発限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	1.0～2.0(1%,25℃)
動粘性率	データなし
溶解度	水溶性
n-オクタノール/ 水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10.【安定性及び反応性】

化学的安定性

通常取り扱い条件(屋内、常温)においては安定である。
但し、高温及び多湿での放置は品質劣化を起こすので避けること。

危険有害反応可能性

酸化剤、塩基と反応する。

避けるべき条件

湿気、加熱、静電放電

避けるべき材料

情報なし

混触危険物質

塩基、塩素、発煙硝酸、酸化剤、金属など

危険有害な分解生成物

特になし

11.【有害性情報】

急性毒性

経口

情報なし

経皮

情報なし

吸入

情報なし

皮膚腐食性/刺激性

区分2であるスルファミン酸を含むため、区分2とした。

眼に対する重篤な損傷/刺激性

区分2Aであるスルファミン酸を含むため、区分2Aとした。

呼吸器または皮膚感受性

呼吸器

口腔・食道・胃部の灼熱感がある。

皮膚

粉塵やミストを吸入した場合、鼻、喉、気管支、肺を刺激する。

生殖細胞変異原性

情報なし

発がん性

情報なし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

危険有害性区分に該当する成分を含有する。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

情報なし

誤えん有害性

情報なし

その他

情報なし

12.【環境影響情報】

水生環境有害性 短期(急性)

区分3であるスルファミン酸を含むため、区分3とした。

水生環境有害性 長期(慢性)

区分3であるスルファミン酸を含むため、区分3とした。

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物

下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。

少量の場合は、水で希釈してから、アルカリで中和して排出する。

廃棄処理するときは保護具を着用する。

多量の場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理する。

汚染容器・包装

使い終わった容器は、よく洗ってから処理する。

内容物/容器の廃棄においては、関連法並びに地方自治体の基準に従うこと。

14.【輸送上の注意】

国際法規制

該当しない。

国内法規制	陸上輸送	消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
	海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
	航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。

輸送の特定の安全対策及び条件

輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確認する。
 荷役作業は丁寧に扱い、容器を破損しないように取り扱う。
 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を行う。
 直射日光下での輸送は避ける。
 水濡れを避ける。

15.【適用法令】

化審法		該当しない
毒物及び劇物取締法		該当しない
化学物質管理促進法 (PRTR法)		該当しない
労働安全衛生法	通知対象物質	該当しない
	表示対象物質	該当しない
	リスクアセスメント対象物質	該当しない
	皮膚等障害化学物質	該当しない
消防法		該当しない
船舶安全法		腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法		腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法		危険物・腐食性物質(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二口)

16.【その他の情報】

記載内容の問い合わせ先	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糞谷3-11-10
担当部門	マーケティング室
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706

改訂履歴

作成	2016年12月22日
改訂	2022年4月11日
改訂	2022年6月22日
最終改訂	2024年4月18日

注意

・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
 ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
 ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途、用法に適した安全対策を講じた上で実施してください。
 ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
 ・ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定してください。